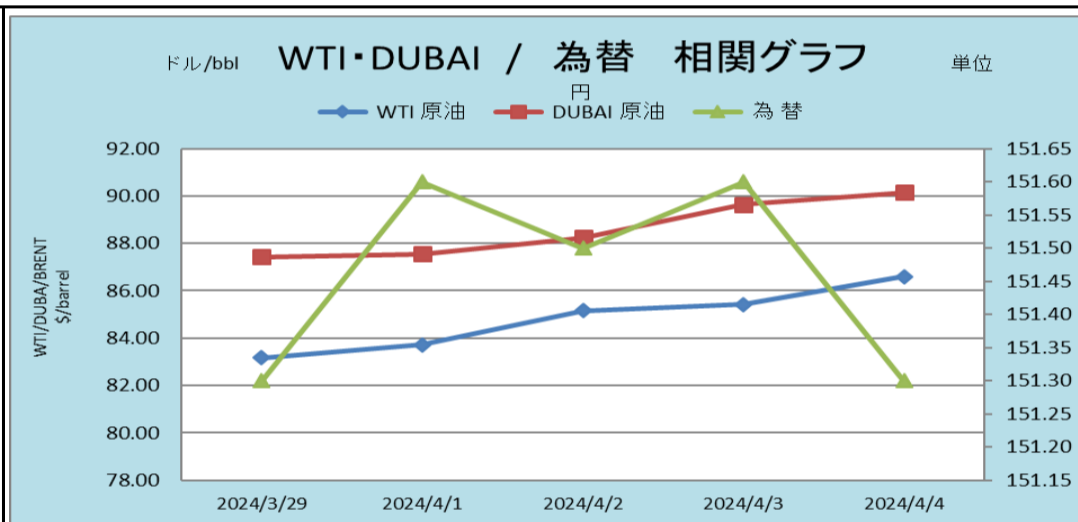
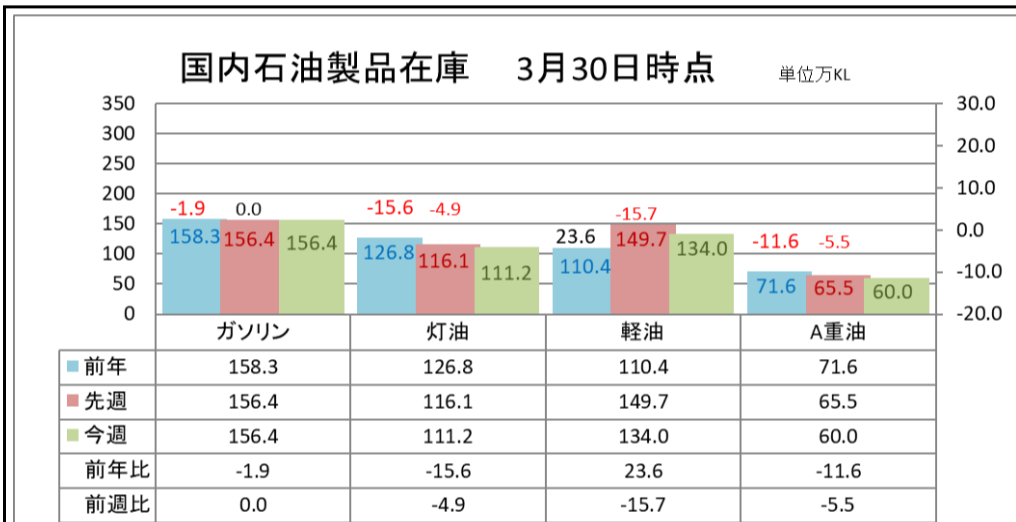


【概況】

●29日、NY石油 グッドフライデーの為休場。  
 ●1日、米サプライ管理協会(ISM)が1日発表した3月の米製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.3と、前月から2.5ポイント上昇し、市場予想(ロイター通信調べ)の48.4を上回った。同指数が製造業の景況拡大と縮小の分岐点とされる50を上回るのは2022年10月以来1年5カ月ぶり。中国国家统计局が前日公表した3月の製造業PMIは50.8と、景気の拡大・縮小を判断する節目の50を6カ月ぶりに上回った。両指標を受けて、2大エネルギー消費国の需要拡大への期待が台頭し相場は83.71ドルへ続伸しました。  
 ●2日、ウクライナは2日、ロシアの主要製油所を標的に新たなドローン(無人機)攻撃を実施。ロイター通信の画像分析によると、日量34万バレルの産油能力を有する施設の約半分が打撃を受けたもようで、ロシアからの石油製品供給が一段と混乱するとの警戒感が広がった。これとは別に、同国国営天然ガス独占企業ガスプロムが運営するガス処理設備が先月30日に修理のため稼働を停止後、石油製品の生産を休止していることも明らかになり相場は85.15ドルへ続伸しました。  
 ●3日、石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」は3日、オンライン形式で開かれた合同閣僚監視委員会で、現行の協調減産の維持を確認した。これを受け、需給引き締め観測が広がり、原油は買いが優勢となり相場は85.43ドルへ続伸しました。また、イランの在シリア大使館が1日にイスラエルの空爆を受けたとされる問題を巡り、2日に開かれた国連安全保障理事会でイランの代表は、同国は「断固とした対応を取る正当かつ固有の権利を持つ」と対抗措置をほのめかした。  
 ●4日、米労働省が翌5日発表する3月の米雇用統計を控え、相場では持ち高調整の原油売りが先行。米連邦準備制度理事会(FRB)による年内の利下げ開始時期や回数を探る上で、雇用動向がカギを握るため、警戒感が広がった。ただ、売り一巡後は一転して買いが台頭。中東情勢の緊迫化や石油輸出国機構(OPEC)主導の減産方針の継続を背景に需給引き締め観測を受けた買いが活発化した。このため、一時84ドル台まで下落したあと2ドル超切り上げ相場は86.59ドルへ続伸しました。

4月5日 16:00現在 WTI原油 87.04ドル 為替 1ドル 151.99円



	次回元売変動予測	
	4/11~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.8~-1.3
灯油	→	-0.8~-1.3
軽油	→	-0.8~-1.3
A重油	→	-0.8~-1.3
LSA	→	-0.8~-1.3

【製品卸価格】

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+1.0円」、補助金は、「-23.9円・60%」、都合「+0.4円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの1日時点の小売価格平均は174.6円となっております。  
 ▶4月11日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストは「+3.5円~+4.0円」、激変緩和補助金は「-28.4円・60%」の見込みで、都合「▲1.0円~▲0.5円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「3.5円~4.0円」  
 ※激変緩和補助金「-28.7円」前週比-4.8円  
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】 <再生可能エネルギー拡大で送電網新設へ 1兆5000億円以上を投入>

再生可能エネルギーの導入拡大に向けては、太陽光や風力発電が盛んな北海道や九州と、東京などの消費地とを結ぶ送電網の整備が課題となっています。具体的な整備計画がまとまり、北海道と東京を結ぶ送電網を1兆5000億円以上を投じて新設することになりました。脱炭素に向けて、再生可能エネルギーの導入拡大が急がれる一方、太陽光や風力発電の適地が多い北海道や九州では、発電量が増えすぎて電力供給が需要を上回り、電気がむだになるケースも起きていて、消費地の東京や大阪などを結ぶ送電網の強化が課題となっています。これを受けて、全国の電力需給を調整しているオクト＝「電力広域的運営推進機関」は、北海道や九州と、本州を結ぶ送電網の具体的な整備計画をまとめ、来年度に事業者を公募することになりました。このうち、北海道と東京を結ぶ送電網では、1兆5000億円から1兆8000億円を投じて日本海に海底ケーブルを敷くルートを新たに整備し、2030年度ごろには今の3.5倍の容量まで増強させる計画です。また、九州と中国地方をつなぐ送電網も4000億円ほどで増強し、2030年代前半には今より容量を30%ほど増やすことにしています。脱炭素社会の実現とエネルギーの安定供給の両立に向けては、広域で電力を融通しあう送電網の整備が重要なことからオクトでは、できるだけ早期に増強させたいとしています。